



上里町長 山下 博一氏

町長のメッセージ

上里町は、都心から85km圏内の埼玉県の最北端に位置し、烏川と神流川に囲まれた平坦な大地が広がり、穏やかな気候に恵まれた町です。

のどかな田園風景に癒されたり、観光・交流の拠点である上里サービスエリア周辺で賑わいを感じたりと、多様な楽しみ方にあふれています。

今後、企業誘致や町内のインフラ整備を一段と加速させると共に、子育て日本一を目指し、町民の皆様が暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。

はじめに

上里町は東京都から85km圏内、埼玉県の最北端に位置しており、烏川と神流川^{かんな}の二つの河川を境として群馬県と接している。町域は東西約6.0km、南北約5.5kmで、面積は29.18km²、人口はおよそ3万人である。

町内を上越新幹線とJR高崎線が通り、JR高崎線の神保原駅が町の玄関口となっている。町内に上越新幹線の駅はないが、隣接する本庄市の本庄早稲田駅を身近に利用することができる。また、2015年には関越自動車道上里スマートICが供用を開始した。国道17号や国道254号などが町内を通っていることもあって、交通の利便性は非常に高い。

上里町は、1934年に日本人女性として初めて海外への飛行に成功した飛行士・西崎キクの出身地である。町は、後に町の開拓にも尽力した郷土の偉人、キクを広く紹介する事業に取り組んでいる。



このはなパーク上里

☀ このはなパーク上里

関越自動車道上里SAは、上信越自動車道や北関東自動車道との分岐近くに位置し、埼玉県だけでなく、近隣の群馬県や長野県など様々な地域の旬の食材等を使った料理やお土産を提供している。埼玉県の北の玄関口として、一日およそ2万人の利用者がある全国的にも利用者数の多い施設である。

町は、上里SAと連結する上里スマートICや周辺の産業団地等を含めた「上里サービスエリア周辺地区」を「町の中心的な観光拠点」、「人・もの・仕事が充実した広域交流拠点」にすることを目指している。「このはなパーク上里」と名付けたこの地区に、町民と来訪者が交流できるエリアを設け、地元産品の販売やイベントなどによる農業・観光振興を推進するとともに、スマートICによるアクセスの良さを生かした土地利用を図っている。

「このはなパーク上里」の人気観光スポットの一つが「上里カンターレ」である。南イタリアの街並みをイメージした明るく楽しい雰囲気のある園内には、こだわりのスイーツや焼きたてパン、お菓子のアウトレットなどが並び、カフェでは自家製生パスタや焼きたてピザなどを楽しむこともできる。ほかにも、地元産の新鮮な農作物が並ぶ農村公園「アグリパーク上里」や、いちごとトマトの収穫体験が楽しめる「上里いちご&トマト園」などもあり、「このはなパーク上里」は、食のテーマパークとでもいふべき人気施設になっている。

上里町概要

人口(2023年3月末日現在)	30,534人
世帯数(同上)	13,383世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	48.1歳
面積	29.18km ²
製造業事業所数(経済センサス)	68所
製造品出荷額等(同上)	1,302.9億円
卸・小売業事業所数(同上)	209店
商品販売額(同上)	457.2億円
公共下水道普及率	16.0%
舗装率	73.5%

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR高崎線 神保原駅
- 関越自動車道 上里ICから町役場まで約3km

☀ 神保原駅北のまちづくり

近年、全国で人口減少や少子高齢化が進んでおり、上里町でも2010年をピークに人口は減少に転じている。かつて神保原駅の周辺は、町の中心地として大いに栄えたが、郊外への大型店舗の立地などもあって、人やものが以前のように集まらず、今日ではあたかもただ通過するだけの場所のようになってしまっている。将来的にも人口減少の動きは続き、2050年頃の駅周辺居住者は、現在の約1,200人から約800人まで減少すると見込まれている。

こうした状況を受け、町が2022年3月に発表した「神保原駅北まちづくり基本構想」では、駅北の将来像を「賑わいとゆとりを感じ 歩いて楽しむ『まちなか』～ひと・まち・駅をつなぐまちづくり～」とすることが定められた。

具体的には、道路幅が狭く、歩道や自転車道が未整備のため、安全に通行できない神保原停車場線(駅前通り)や駅周辺の道路などの整備に取り組むとともに、商業施設や飲食店等の誘致により賑わいのある駅前づくりを進め、居心地が良く、歩きたくなるウォーカブルなまちなかを目指す。あわせて、駅周辺の空き地や空き家を活用して公園や緑地等の憩いの場を設け、駅北を再び「みんなが集まる場所」にするというものだ。

町は、将来にわたって持続可能なまちを目指し、神保原駅周辺を中心としたコンパクトなまちづくりを推進している。

☀ 種子小麦の名産地

わが国は、パンや菓子、麺類などに使用する小麦の大半を海外からの輸入に頼っているが、国内にも北海道をはじめ幾つかの産地があり、埼玉県も主要産地の一つになっている。

国産小麦は、種の管理が厳重に行われており、遺伝的に他の品種が混ざらないように生産された原種を使って種子小麦が栽培され、種子小麦から育てられた小麦が食用として販売される。上里町はこの種子小麦の名産地で、県内の小麦生産の大半を担っており、町のマスコットキャラクター「こむぎっち」も、小麦がモチーフになっている。

国産小麦は、年ごとのたんぱく質含有量の振れが大きいなど品質面での課題を抱えていたが、近年は品種改良が進んできた。上里町では、2013年産から麺類に適した「さとのそら」が主力品種になっており、様々な製品に利用されている。(井上博夫)



上里町の小麦畑